

2020年9月吉日

健保だより 51

新電元工業健康保険組合
理事長 白羽 真

日頃より健保組合の取組みに対し、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

夏の暑さもピークを越え、だいぶ朝晩が涼しく感じられるようになってきましたが、日中の暑さはまだ暫くは続きそうですので引き続き暑さ対策は忘れずに心掛けて下さい。皆様、体調など崩されてはいませんか？

さて先月17日、内閣府が発表した2020年4～6月期の国内総生産（GDP）ですが、年率換算で27.8%減となり、リーマン・ショック後の09年1～3月期（年率17.8%減）を超える戦後最悪の下落を記録したことはご承知かと思えます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い4月に緊急事態宣言が発令され、外出自粛や休業要請の影響で個人消費が急減。国内外の経済活動が停滞し、企業の設備投資や外需も悪化となりました。

また実質GDPは、消費税率が10%に引き上げられた影響を受けた19年10～12月期から3四半期連続のマイナス成長となりました。

緊急事態宣言が全面的に解除された6月の一部の指標には、改善の兆しが見られており、7～9月期についてはプラス成長を見込んではいりますが、夏場に一旦は落ち着くだろうと予測されていたコロナウイルス感染者数が、減少するどころか各地で過去最多を更新し、一向に改善される気配すら見えない現況下では『V字回復』への期待は薄いのではないのでしょうか。

特に、企業の業績が大幅に悪化する中で、設備投資の絞り込みという動きはこれから本格化してくるものと思われます。

先日、新電元工業の「2021年3月期第1四半期決算短信」が公表されましたが、非常に厳しい状況でした。今後、更なる下方修正は無いと信じていたいものの、景気の回復次第では如何ともしがたく、未決着の冬季賞与の支給も不安視されるところです。

当健保としても、大幅な収入減となることが予想され、厳しい運営状況となっています。

当初より今年度は、別途積立金より350百万円を切り崩して保険料率を維持しての運営を計画しており、次年度の保険料率改定に向けて少しでも余力を残す方針でしたが、このままでは赤字幅が広がる一方で、次年度の保険料率も大幅な上積みとなりそうです。

当健保としては、母体の早期回復を信じ、いま出来る支出費用の削減策を全力で進めていきます。

コロナウイルスの感染拡大状況は、幸いにも現状（第2波）では、ここまで若年層を中心とした無症状や軽症の感染者数が多く『医療崩壊』は免れているものの、冬場の第3波襲来を待たずして重症患者数が徐々に増えつつあることが懸念されています。

今後、ワクチンや特効薬が出てくるまでの当面の間は、コロナ以前に戻ることはないと言われていますが、我々国民ひとり一人が、国の提唱している「新しい生活様式」を実践し、コロナウイルスとの共存を図っていくしかないのでしょうか。

以上